

財団法人 損保ジャパン美術財団

平成 16 年度(2004年度)事業計画

(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)

方針	<p>1. 展示活動を活発に行い、多くの人々に親しまれる美術館として美術文化の振興につとめる。</p> <p>このため、</p> <p>特別展においては当美術館としての特性を生かし、国内・外美術館等から優れた美術品を招致する。</p> <p>館外展を含め館蔵作品の貸し出しを通じて、国内・外地域との文化交流をはかる。</p> <p>2. 優れた美術家の表彰ならびに支援によって美術界の発展に寄与する。</p> <p>3. 社会教育、特に青少年を対象とした教育・普及活動を推進する。</p> <p>4. インターネットのホームページを充実し、展覧会等の情報サービスを強化する。</p>
-----------	---

事業**I. 損保ジャパン東郷青児美術館の運営**

1. 展示

(1) 常設展示

平成16年4月1日
～6月中旬

ゴーギャン「アリスカンの並木路、アルル」の貸し出しに伴い、その代替作品としてホノルル美術館から借用している次の作品とゴッホ「ひまわり」、セザンヌ「りんごとナブキン」を常時展示する。

ゴーギャン 〈タヒチの浜辺の女たち〉

平成16年6月中旬
～平成17年3月31日

ゴッホ「ひまわり」、ゴーギャン「アリスカンの並木路、アルル」、セザンヌ「りんごとナブキン」を常時展示する。

(2) 特別展

① ボナール展

平成16年4月29日
～6月30日

ありふれた日常的な光景を鮮やかな色彩で描き「色彩の魔術師」と称されたボナール芸術の本質を紹介する回顧展。本展では、欧米並びに国内の美術館や個人所蔵家から借用したボナールの初期から晩年までの油彩、版画、素描等約70点の作品を一堂に展示する。

共催：産経新聞社

② 高村光太郎展

平成16年7月7日
～8月29日

近代彫刻の開拓者の一人である高村光太郎の貴重な彫刻作品を中心に、絵画や書もあわせて展示し彼の芸術的探究を紹介する展覧会。父・高村光雲の木彫と、妻・智恵子の紙絵も参考展示の予定。

共催：日本経済新聞社

- ③ ピカソ展
一幻のジャクリーヌ・
コレクションー
平成16年9月4日
～10月24日

天才ピカソが亡くなった時の妻ジャクリーヌ夫人が相続したピカソ・コレクションより、油彩画57点の他デッサン、彫刻など約120点の作品を公開する。ほとんどの作品が日本初公開である。

共催：東京新聞

- ④ 佐野ぬい展
平成16年10月30日
～12月5日

2003年「第26回損保ジャパン東郷青児美術館大賞」受賞作家、佐野ぬいの受賞記念展。受賞作品〈二つの青のシネマ〉を含めた油彩作品等を展示紹介する。

- ⑤ ドマーニ・明日展2005
平成17年1月21日
～2月24日

文化庁芸術家在外研修生の帰国後の成果を披露する展覧会。本年度は「版画および写真」部門で活躍している作家の作品を紹介する。

共催：文化庁 読売新聞東京本社

- ⑥ 第24回損保ジャパン
美術財団選抜奨励展
平成17年3月10日
～4月14日

平成15年9月～平成16年8月に開催された36公募美術団体展において当財団の奨励賞を受賞した絵画部門の作品と推薦委員より推薦された作家の絵画作品を展示する。本展の開催に先立ち、これらの展示作品を対象に優秀作品を選考し、表彰する。

共催：産経新聞社

(3) 所蔵品展

① 平成16年12月10日 東郷青児作品を中心に他所蔵品を展示
～平成17年1月16日 する。

② 併設展示 各特別展開催期間中、所蔵作品展示コー
ナーを併設し、東郷青児作品他を展示する。

(4) 館蔵品の貸し出し

① 館外展 魅惑の女性美 東郷青児展（仮称）

会 場：駿府博物館（静岡市）

会 期：平成16年10月9日～11月23日
（会期日数37日間）

作 品：未定

② 主要館蔵品貸し出し 作 品：ゴーギャン〈アリスカンの並木
路、アルル〉
岸田劉生〈自画像〉

*上記2点とも損保ジャパンからの受託
作品

貸出先：ホノルル美術館（ハワイ）

会 期：2005年4月8日～6月6日

*貸し出し期間中の代替作品として、同
美術館のゴーギャン〈タヒチの浜辺の
女たち〉を借用、展示する。

作 品：東郷青児〈超現実派の散歩〉

貸出先：鳥根県立美術館

会 期：平成16年4月23日～5月30日

作 品：ルノワール〈浴女〉〈帽子の娘〉
*上記2点とも損保ジャパンからの受託
作品
貸出先：ホテルオークラ
会 期：平成16年8月4日～8月31日

2. 館藏品・資料・文献の充実

(1) 館藏品の充実

第26回損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞作家「佐野ぬい」の作品を購入する。

(2) 館藏品の点検および修復

館藏品の保存状況を的確に把握するため定期的に点検及び記録写真の撮影を行い、作品の劣化防止に適切な手段を講じるほか、必要に応じて作品の修復、額縁の修理・取り替えを行う。

(3) 資料・文献の収集

館藏品及び展示作品に直接あるいは間接的に関連した資料・文献を収集し、学芸研究及び展示活動の充実を図る。

(4) パソコンの有効活用による資料・文献の収集・整備

パソコンの有効活用を図り、資料・文献の収集・整備、インターネットの活用による他館情報等の入手を積極的に行う。

3. 調査・研究

(1) 学芸職員の研修

適切な指導・助言のもとに資料研究あるいは保存・展示技術の研修を進める。また、学会や各種機関の研修会・講座等に参加するほか、特色ある美術館や展覧会の見学等を通じ、学芸員の能力向上を図る。

(2) 各種図録・解説書の刊行・頒布及び説明会の開催	各種展示の理解を助けるため、図録、解説書を作成するほか説明会等を随時開催し、展覧会の充実に役立てる。特に、青少年を対象とした解説書の作成、説明会の実施等を積極的に推進する。
4. 公共への協力	
(1) 博物館実習生の受け入れ	各大学からの学芸員資格取得のための博物館実習生の受け入れ要請に協力する（8大学8名予定）。
(2) 施設・資料の供用	公共体、教育機関あるいは美術研究者等より、美術に関する調査・研究・実習のため施設及び資料供用の要請を可能な限り協力する。
(3) 他美術館との連絡・協調	博物館会議、美術館会議等に出席して情報の交換を行うほか、随時見学等を行い、他美術館との連絡・協調を密にする。
5. 広報活動	
(1) マスメディア	新聞、雑誌、テレビ等マスコミの取材に積極的に対応するほか、インターネットの積極的活用を含め広告媒体についても多様化を進め、展覧会および美術館の広報を行う。
(2) ホームページ(インターネットによる発信)	ホームページにおいて自館の展覧会情報、所蔵作品情報等の提供を行っていく。
6. 教育活動	学校など外部機関の教育活動としての美術館利用に積極的に協力し、教育活動の実を上げる。

